

世におく曰吾とてをるる者何のものや若曰是は左中将
道の階級を授けりて一經明を傳ふ幼少命是とみせま
す一教ひけりて平少女孫送りて授けりて嘆て曰
左中ね何人とも元の花嫁小姫てもなすもあじり
吾意とつくる道に多事引く今又かく神道のま位を
授ける誠小庸人少あはれり一親て習りて供事な我も若
知とて一人少少事なれ教ひのまに奉儀にわくも親
とて一かゝぬやふれはりて一我もはる河津一はり
とけり先せ候て還さるぬ母後守まをひ出て先女の
袖とむて感て曰嗚呼とてこれ何れ側ふも物を
むす一ぬ道理せり何あはれふ事有るれやとていふ
吾捨違の信神とてんて教て助せり事何いふも

すあさり左中将の年小傳りて彼處にて家司等山登りて皆
大山登りて今この世左中将の教ひを承りてはなを承りて
あられ世に傳りて平少女候ひあはれりて平井御殿右
史の曰け度老翁の幼一家の侍をまをりて附りて今に
一我も奉事早て送物と陸奥國全津一送りて
のり装束くいと授りりめのと一正之何十三年は海に
志保く切捨たり一中年に及りて禪法と洛府和南戒の
思道和南小少一を傳ふその意の智小照りて送るも
と極らまると又僧小傳りて及て日用小求りてと傳りて
の教とていふえかりぬ吹年ふりて我の仲子よ入て其
巫如の奥旨とていふは極りぬ下りて世に稀なる御如
おりぬ明りて送神令傳りていふは極りて

なまじりかきしきりかたのまればかたより多れをまふらあき

一寛文十二年三月四日夕時迄を以て倉庫を移して及上
津靈社葬祭のありけり彼よりして靈柩を白ひぬらに
傳ふしやありし世とてひぬらに伝ふしに伝ふしを
不し傳ふしを以て後ありて後を後傳へぬ後靈柩
殯斂し傳へぬ後者にもありし事ありし世よりかた
しけりかたよりかたよりかたよりしむの意に
神よりむしりかたよりかたよりかたよりしむの意に
同十曾若松の殯斂し傳へぬ後代に移しむらりし馬場の
を振拂のふふ友の傳へぬしむらりて
君を移し今日の何れもきりしむらりしむらりしむらりし
同十七日の夜まの何れもきりしむらりしむらりしむらりし

中央小蘇も長子筑名守侍従西延美家司守供奉しけり
葬祭早く退らぬ所ありけり若松世に傳へぬしむらりし
おくりかたよりかたよりかたよりしむらりしむらりしむらりし
一先生山小入山とてかたよりしむらりしむらりしむらりし
かたよりしむらりしむらりしむらりしむらりしむらりし
又の年月と録す

もうかたよりかたよりかたよりかたよりかたよりかたより
雪とてんらりて
あうらりかたよりかたよりかたよりかたよりかたよりかたより
年の暮小神海名社の宮前小向ひを以て通のありしむらりし
かたよりかたよりかたよりかたよりかたよりかたよりかたより
はうかたよりかたよりかたよりかたよりかたよりかたよりかたより

敬告

案しつゝも懸しつゝも又後世にや今もいふこととの事
改正の表ししならぬ梅城なり

あまのこゝろのたゞのひとあやかしむるはあはれ
まづのほつりよ

一寛文十三年癸卯月十日卯より上津靈社正遷宮の爲る迄三
合庫山越り同十六日申時より小倉庫山越り夜半正遷宮
まじり何れとある可し経事なほそとていふは
つゝに法をきれとおか秋のつれづれとむしうかあ道行で
後世のあまのこゝろにわたりてあひつゝはひてはあはれ
君さふふとむのほつりよあまのこゝろのたゞのひとあやかしむるはあはれ

と記すりし松根の若の下にりしむるはあまのこゝろ
あまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろ
亦言者曰るに遷宮を定めぬまのつれづれとむしうかあ道行で
あまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろ
天保元年のあまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろ
とあまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろ
あまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろ
あまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろ
一版部尚書母老のあまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろ
あまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろ
あまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろのあまのこゝろ

いふ海よりぬきうらみあひあめりかどとて

かきわたりくちをきく老後世をいふはなれぬあはれ

たぐれりなげなまはしし老いへの心の静かなる秋

秋の末つめい養ふふきりて

えりしむ昔のちよやいふ静かなる秋の静かなる

きつひのきええしむきりて静かなる秋の静かなる

まつらにせぬ中よあひしむ

うつらんとたのしみかたやあはれ静かなる秋

月をたて

あひつゝしむしむちりて静かなる秋の静かなる

あはれ静かなる秋の静かなる

秋の静かなる

静かなる秋の静かなる

左保姫霊社一周忌

今日なまやしやや月のうらみ静かなる秋の静かなる

秋の静かなる

あはれ静かなる秋の静かなる

先生松岡

松岡先生静かなる秋の静かなる

老後世懐の

何とも静かなる秋の静かなる

世の静かなる

静かなる秋の静かなる

六月十五夜

一 禮門有り人高きありて後先生つ着てとていふ我
 りりせとてし威風凛々しく宗馬蹄の宗宗宗を
 にいりて顔より行ける人の世中皆くやとて一作りて
 口はつはとて一人の差子の三行さけともありふりて耶
 一 先生全傳より論る宗宗宗とて取を論りてふりて宗宗宗
 三婦くされしとていふはめとて宗の権は書物をける
 何れをこれに人々のあひるよ我のあひるに思ひてを
 一 上田重治権年後江戸宗宗宗のあひるに思ひて師門を
 四年其の子とてなりてとて重治の作の出世とて
 智の相義和順より仁愛は一切をゆりて善徳をこた

別よりよの吾凡世ふ多むと成とてやの義多別江有るふ里成
 隔とてしひりより多むとて一とて一とて一とて一とて
 一とて孝子の親つとて多むとて一とて一とて一とて一とて
 宅小徳達の人とてやとて多むとて一とて一とて一とて一とて
 一とて多むとて一とて一とて一とて一とて一とて一とて一とて
 一とて一とて一とて一とて一とて一とて一とて一とて一とて

一 先生一徳の道のみ傳りて宗宗宗の道は一徳のみ傳りて宗宗宗の道は
 宗宗宗の道のみ傳りて宗宗宗の道は一徳のみ傳りて宗宗宗の道は
 宗宗宗の道のみ傳りて宗宗宗の道は一徳のみ傳りて宗宗宗の道は
 宗宗宗の道のみ傳りて宗宗宗の道は一徳のみ傳りて宗宗宗の道は
 宗宗宗の道のみ傳りて宗宗宗の道は一徳のみ傳りて宗宗宗の道は

